

多様な主体の連携・協働の促進

令和5年12月11日

地域コミュニティ活性化推進審議会資料

前回(令和5年度第1回)の審議内容

議題: 多様な地域の特性に即した地域活動の推進(基本指針2)

● 事務局側からの説明

基本指針2推進項目3「地域団体による地域課題の把握・解決」、推進項目4「地域団体の持続可能な運営支援」に基づく、行政での取組、具体的な地域事例を踏まえた紹介

● 各委員3名からの発表

「多様な地域の特性に即した地域活動」をテーマに発表いただいた。

① 沖委員『社会福祉協議会について』

② 森本委員『地域団体の維持・継続に向けて～消防団の運営について～』

③ 森川氏『景観まちづくり 価値共有によるコミュニティ再生の試み』

● 委員からの意見(一部抜粋)

・子どもの時から地域コミュニティの大切さ、自分の地域を誇りに持つような機会に触れることが大切

・「温故知新」ではなく、「温故創新」・・・新しく創り出していく取組が大切

・どの団体も地域の担い手不足など共同体としての弱体化が進んでいるが、多様な人々に声をかけ、地域側には受け入れる柔軟性が求められ、地域皆総力戦で知恵を出し合っていくことが必要

・審議会を、委員の活躍する地域の拠点である現場で開催すれば、理解も深まり、より実感しやすいのでは

今回の審議会について

令和5年 第2回審議会(令和5年12月11日)

基本指針1

一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくり

基本指針2

多様な地域の特性に即した地域活動の推進

基本指針3

多様な主体の連携・協働の促進

◆ 推進項目5「市民活動団体等と地域団体との連携」



推進項目5 市民活動団体等と地域団体との連携

- ・地域課題の解決や、魅力的あるまちづくりを進めていくため、専門的な知識やノウハウを持つ多様な主体と連携、協力を進める。

地域と多様な主体との連携

【〇〇と地域との連携】

①市民活動団体やNPOと...

- ・自治連合会と連携し子ども食堂の運営で場所の提供⇒R4第2回審議会で発表

②地域企業と...

- ・町内にある宿泊施設が町内会の地蔵盆での会場提供や従業員が町内会の役員を務める
- ・宿泊施設と学区との防災協定締結
(配慮が必要な住民の一時避難所としての施設提供)

③大学、高校等と...

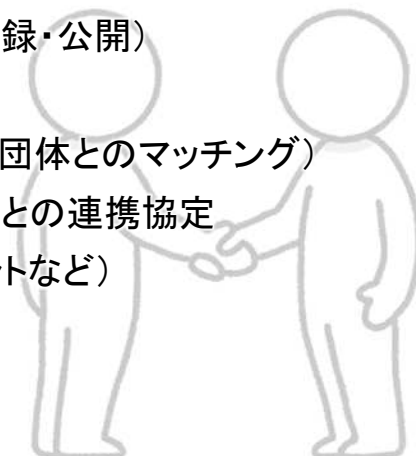
- ・地域の清掃活動やお祭りへの参加
- ・学区ビジョン作成での大学との連携
- ・高校生が学区内の高齢者に対し、スマホ教室を実施

④福祉団体等と...

- ・社会福祉協議会などの福祉団体による買い物支援⇒前回審議会で発表

【行政施策】

- ・地域の実情、資源に応じたコーディネート
(多様な主体と地域との橋渡し)
- ・まちづくり・お宝バンク
(まちづくりの取組提案を募集し、登録・公開)
- ・しみセン“つながる”ネット
(地域で活動する団体と多様なNPO団体とのマッチング)
- ・中小企業家同友会各支部と区役所との連携協定
(ふれあいまつり、子ども向けイベントなど)



推進項目5 市民活動団体等と地域団体との連携

地域の実情・資源に応じたコーディネート

- 大学の学生団体が上京区役所へ「地蔵盆を手伝いたい」と相談。まちづくりアドバイザーがコーディネート役となり、担い手不足に困っていた2つの自治会にて地蔵盆の企画・準備から当日の運営まで参画。「紙芝居」や「ふごおろし」などでは、学生ならではの柔軟な工夫や知恵で、地蔵盆を盛り上げた。
- 北区のある自治連合会から、町内会の加入促進について区役所へ相談があり、自治会・町内会支援に取り組みたい大学生（ゼミ）をコーディネート。
学区内の町内会長と大学生が参加するワークショップを設け、効果的な自治会加入の呼び掛け方や、自治会加入を促すチラシの内容について、活発な意見交換を行った。

まちづくり・お宝バンク(総合企画局)

京都をよりよく、より住みやすいまちにするために、まちづくりの取組提案を募集し、ホームページ「みんなでつくる京都」で公開。実現を後押しする知恵や力を募り、コーディネートすることで、実現をサポートする事業。

- お宝No.238: 祇園祭りを体感しながら地域に貢献できる「岩戸山ソーシャル寄町」
(提案者: 岩戸山ソーシャル寄町)
⇒ 岩戸山町の小規模劇場を拠点に演劇活動を展開する提案者と岩戸山保存会の連携
- お宝No.243: 減災カフェ(提案者: チームKUSABI)
⇒ パトロールランニング等を行う提案者と下京区菊浜学区の連携。



行政×大学×地域

3L APARTMENT(都市計画局)

平成31年に京都市、龍谷大学、田中宮市営住宅自治会の三者で「公共空間利活用と周辺地域活性化に係る連携協定」を締結。大学生が田中宮市営住宅に入居し、暮らしながら自治会活動にも参加することで地域コミュニティの活性化に取り組んでいる。

紫竹学区自治連合会と大谷大学との連携(北区役所)

北区民まちづくり提案支援事業として、紫竹学区自治連合会加入調査「町内会アンケート」を実施。分析の協力や地域イベントでのアンケート実施などに大谷大学の学生が協力。その後、大谷大学内において地域連携活動として「紫竹自治会応援プロジェクト」が発足。(⇒ 志藤会長がご担当)

← 二次元コード: 京都市「市政参加とまちづくり」応援ポータルサイト『みんなでつくる京都』

令和5年度第2回審議会のテーマ

地域と多様な主体との連携・協働の促進への方策

- ◆ 多様な主体が地域に関わりやすい方策
- ◆ 多様な主体のノウハウ等を活かすための工夫
- ◆ 関わりやつながりを生むための方策

